

登録コード	UA111503	開講年度	2026				
授業題目	解析手法論（法学分野）			担当教員	久保田 隆 他		
				副担当	栗田 晶・矢部 竜太・増原 宏明		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・6 時限		
			授業形態	講義			
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				【授業の達成目標】		
	2 6 UAカリ・総人社，2 5 UAカリ・総人社，2 3 UAカリ・総人社・人間文化学，2 3 UAカリ・総人社・法学						
	【研究科共通】量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。				法学分野特有の判例分析による質的分析方法の習得と併せて、量的解析方法も学ぶことで、自ら取組む課題の性質に応じた情報分析を行うことができるようになる。		
	【研究科共通】人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし、俯瞰的な視野で課題を捉える力を有する。				量的分析方法についての知見も活かしつつ、俯瞰的な視野の下で課題の背景や他の事件に対する影響などについて説明することができるようになる。		
(2)授業の概要	解析手法論（法学分野）では、1）判例分析の手法と2）統計学等によるデータ解析の手法について扱います。1）では法学分野で伝統的に行われてきた質的分析方法を、2）では経済学をはじめとする他の分野で発展してきた量的分析方法を学ぶことができます。法学における質的解析の対象は判例に限られないが、この授業では、主に判例を素材とした分析方法について検討します。判例の質的な分析方法に加えて、量的分析方法にも触れることで、受講生が具体的課題の特性に応じた分析方法を用いることができるようになることを目標としています。遠隔授業を実施する際は、Zoomを使用したリアルタイムオンライン授業とします。ZoomミーティングのURLは、eALPSまたはメールにて事前にお知らせします。						
(3)授業計画	第1回：授業ガイダンス、記述統計（矢部） 第2回：記述統計（矢部） 第3回：記述統計（矢部） 第4回：推測統計（矢部） 第5回：推測統計（矢部） 第6回：実験計画法（矢部） 第7回：実験計画法（矢部） 第8回：検定（増原） 第9回：実例を用いた検定の演習（増原） 第10回：回帰分析（増原） 第11回：判例分析の手法（久保田） 第12回：判例分析の手法（久保田） 第13回：判例分析の手法（久保田） 第14回：判例分析の手法（久保田） 定期試験は行わない。 レポート課題の出題時期や提出期限等については初回ガイダンス又はeALPSにおいて適宜周知する。						
(4)成績評価の方法	各回に課す課題ごとの評価（50％）と最終レポートの到達目標への到達度の評価（50％）の総計で評価します。						
(5)成績評価の基準	○分析力・応用力 検討対象とした社会課題の要因について、課題の性質に応じて適切な分析方法を用いて分析することができるか否か。 ○俯瞰力 検討対象とした社会課題について、情報の質的分析方法と量的分析方法についての知見を活かし、総合的な視野の下で課題の背景や他の事件への影響などについて説明することができるか否か。 各々、極めて高い水準にあれば「卓越している」、非常に高い水準にあれば「かなり上にある」、高い水準にあれば「やや上にある」、一定水準にあれば「その水準にある」と評価します。						
(6)事前事後学習の内容	授業終了時に次回の講義で扱う範囲を紹介し、予習すべき教科書もしくは参考書の範囲、その他事前学習の内容を指示します。						
(7)履修上の注意	無断欠席・遅刻は厳禁。やむを得ず欠席・遅刻する場合はメール等にて連絡してください。						
(8)質問、相談への対応	授業中に質問を受けつける時間を設けるとともに、オフィスアワーまたはアポイントメントによる面談で受講生からの質問に対応します。詳細は第一回目の授業ガイダンスで説明します。						
【教科書】	矢部担当分（第1回から第7回）については、改訂版 日本統計学会公式認定 統計検定3級対応 データの分析，東京図書，2020を用います。 その他の回は、各担当教員が必要に応じて講義資料等を作成し、配布します。						
【参考書】	なし。						